

[たち めいくにとし]

太刀 銘国俊

[かたな むめでんらいくにゆき]

刀 無銘伝来国行

か がじょうしゅ

加賀城主前田家に伝えられた名刀

国俊は山城国(京都)粟田口の刀鍛冶、来[※]国行の子で、孫太郎と称し、鎌倉中期の代表的な刀鍛冶と言われている。弘安(1278～1287)の年号のある国俊の作の太刀があることから、日本刀の黄金時代と言われる頃の太刀である。

この太刀は、もともと加賀百万石の城主前田家に伝えられたもので、刃文は華美でないが鍛えが優れ、古来名刀として名高い。

国俊の父と伝えられる名工・国行

来国行は山城国来派の始祖で、同じく国指定重要文化財である「太刀 銘国俊」の制作者、国俊の父と伝えられている。

この刀は無銘だが、その作風と優れた技量からみて、来派の作と鑑定されるもので、国行の作と見られる健全な名刀。

註(用語解説)

※来：鎌倉中期から南北朝時代にかけて栄えた京都の刀工群の家名。国之・国俊・国次がおり山城を代表する。

出典(北海道教育委員会編纂『文化財シリーズ2～石狩・後志・空知・留萌・胆振・日高編～もっと知ろう身近な文化財』より抜粋)

指定年月日

太刀 銘国俊 昭和8(1933)年1月23日

刀 無銘伝来国行 昭和31(1956)年6月28日

観覧形態

観覧不可(個人所有美術品)

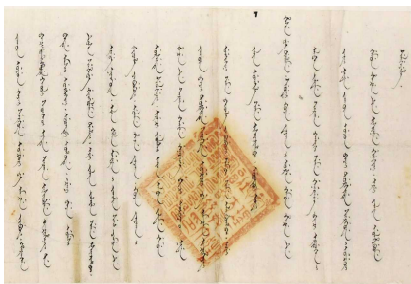
[からふとなよろそうおとなもんじょ]

カラフトナヨロ惣乙名文書

(ヤエンコロアイヌ文書)

アイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群

カラフト西岸ナヨロの惣乙名(複数村落の統括者)をつとめたアイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群で、清国関係文書4通と日本側作成文書9通の計13通で構成される。18世紀から19世紀にかけてのカラフトアイヌと清国、日本との関わりを伝える極めて稀有な文書群である。



制作年代

18世紀後半から19世紀中葉

指定年月日

令和元(2019)年7月23日

所在地

札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学附属図書館

お問い合わせ

国立大学法人北海道大学附属図書館北方資料担当

☎ 706-2994

観覧形態

レプリカまたは高精細デジタル画像

観覧時間

9時00分～17時00分(閲覧室)

休館日

土曜・日曜・祝日・振替休日、年末年始など
(施設のHPで利用制限期間の有無をご確認ください。)

アクセス

(北大正門まで)JR札幌駅北側西口または
地下鉄南北線・東豊線「さっぽろ」7番出口より約400m
地下鉄南北線「北12条」1番出口より約550m

